

登録コード	UAA15500	開講年度	2026				
授業題目	日本語文化総合演習Ⅱ			担当教員	渡邊 匡一		
				副担当	中澤 光平		
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・1時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」			⇔	【授業の達成目標】		
	2 6UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。			⇔	古代日本語文献について、現代の視点から明らかにすべき問題を抽出する問題発見能力を培い、新たな観点から議論が行えるようになる。		
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。			⇔	文字や文献テキストといったベーシックな対象を根本から考え直すための手法を身につけ、多様な対象に柔軟に対応できるようになる。		
(2)授業の概要	日本語で書かれた古写本等の古文書を題材として、その解説・読解に関わる諸問題を講ずる。授業理解に基づき、受講者が課題発表で十全な説明ができるようになることを到達目標とする。 上記目標達成のため、授業形式は、教員による講義・質問と受講生による質問・回答を往還的に行うアクティブ・ラーニング方式で行う。受講生には課題論文の読み込みや、資料読解・解説の実践を課す。						
(3)授業計画	第1回：ガイダンス（全15回の概要説明） 第2回：漢字文献と万葉仮名（講義） 第3回：漢字文献と万葉仮名（課題発表） 第4回：ラテン文字文献とローマ字（講義） 第5回：ラテン文字文献とローマ字（課題発表） 第6回：その他の文字で書かれた資料（講義） 第7回：その他の文字で書かれた資料（課題発表） 第8回：2～7回まとめ（プレゼンテーションとディスカッション） 第9回：書籍の形態（1）歴史書、仏教経典と卷子本（講義） 第10回：書籍の形態（2）歴史書、仏教経典と卷子本（課題発表） 第11回：書籍の形態（3）日記、物語と列帖装・粘葉装・袋綴（講義） 第12回：書籍の形態（4）日記、物語と列帖装・粘葉装・袋綴（課題発表） 第13回：書籍の形態（5）物語、縁起と絵本・絵巻（講義） 第14回：書籍の形態（6）物語、縁起と絵本・絵巻（課題発表） 第15回：9～15回まとめ（プレゼンテーションとディスカッション） 定期試験は実施しない						
(4)成績評価の方法	課題発表および第8回と第15回に行うプレゼンテーションとディスカッションを、到達目標への到達度の観点から評価する。第2回～第8回と第9回～第15回それぞれを50点満点とし、その合計点で評価する。						
(5)成績評価の基準	成績評価の方法に記した点数に基づき、90点以上を秀、80点～89点を優、70点～79点を良、60点～69点を可と評価する。 59点以下の場合は単位認定しない。						
(6)事前事後学習の内容	1）テーマ回の前には授業担当者による講義が行われ、課題が出される。 2）課題発表のための事前準備には、下記参考文献や授業内で紹介した参考文献などを用いること。 3）必ずレジュメを準備すること。（パワーポイントの利用は任意） 4）利用した参考文献は全てレジュメに明記すること。						
(7)履修上の注意	出席は前提。無断欠席・遅刻は厳禁。 やむを得ず欠席・遅刻する場合はメール等にて連絡すること。						
(8)質問,相談への対応	授業外での質問は、メールでアポイントメントをとった上で、研究室を訪ねられたい。 メールアドレスは、渡邊は、kwata@shinshu-u.ac.jp、中澤は、kohein@shinshu-u.ac.jp。						
【教科書】	テキスト（論文・資料等）は授業中に配布する。						
【参考書】	堀川貴司『書誌学入門 古典籍を見る・知る・読む』勉誠出版 大友信一博士還暦記念論文集刊行会（編）『辞書・外国資料による日本語研究』和泉書院 他、授業内にて紹介する。						